

あさがお

 花言葉:「愛情の絆」「堅い結束」

特集

| 下田メディカルセンター 内科 |

地域連携で 患者の生活を支える 総合的な医療を

AREA TOPIC | 下田メディカルセンター

「医師事務作業補助者」誕生
～医療の質向上に事務的な業務をサポート～



地域連携で患者の生活を支える総合的な医療を



下田メディカルセンターは伊豆半島南部にあり、急性期医療から回復期・慢性期医療、在宅医療の後方支援などの機能で地域医療を支える医療機関です。その中でも内科は多様な症状を診る診療の窓口に加え、消化器をはじめ各専門分野の内科診療も担っています。

内科での幅広い診療に加え 地域に必要な救急医療にも従事

私は下田メディカルセンターに着任して日が浅いのですが、日々の診療で当院の多機能さ、医師や設備の充実ぶりなどを実感しています。当院は伊豆半島南部の地域医療を支える中核病院として、急性期医療、回復期・慢性期医療、在宅医療の後方支援と、さまざまな役割を担っています。病床は一般病床に加え、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床があり、治療を受けた患者さんがご自宅に戻するための回復支援のほか、在宅療養中の患者さんの一時入院なども積極的に受け入れていきます。

こうした多機能な病院だけに患者さんの疾患も様々で、内科でも腹痛、貧血、肺炎、生活習慣病といった一般的な症状のほか、消化器、呼

吸器、循環器の各分野を幅広く診ています。さらに糖尿病や循環器はそれぞれ専門の医師による外来を開設し、適切な治療を提供しています。また、複数の疾患があり、総合的な診療が必要な患者さんには、必要に応じて内科とほかの診療科が連携して診る体制が取れるのも当院の特色といえるでしょう。当院でも高度な治療は十分可能ですが、より先進的な治療が必要な方については、密接な連携のもとで順天堂大学医学部附属静岡病院、西島病院、沼津市立病院などにご紹介しています。

加えて救急医療も地域医療に欠かせない機能で、二次救急医療機関である当院は、日中はもちろん、夜間も当番制で医師が常駐して救急に対応しています。私が以前いた西伊豆健育会病院は救急の患者さんの転送に時間を要するため、なるべくお断りしない方針で対応していました。当院もこの地域の中核医療機関であり、本当に対応が難しい方を除いていったん救急でお引き受けし、その後、必要な

場合は専門の診療科・医療機関にお送りしたいと考えています。

内視鏡の手法を磨くなど 消化器内科にも力を入れる

私は当院で内科を中心に診療しながら、特に消化器内科の専門性を高めることを目標にしています。これは初期研修時代に内視鏡に興味を持ったため、開腹せずに、消化管の病変の有無をカメラ越しに目で確認できるのは、病気の確な診断・治療に非常に有用だと思いました。しかも開腹手術に比べて患者さんの体への負担が少なく、各部位の腫瘍を早期発見・早期治療できることも強みの一つです。

当院で内視鏡検査を担当するのはまだ先になりそうですが、内視鏡に関する実務研修を行う時間も定期的にもらえているので、手技を着実に磨いて皆さんの役に立ちたいと考えています。一方で、内科全般の診療も私にとって非常に魅力的で、地域医療の中で幅広い年齢層の患者さん、多様な疾患を診られる当院での勤務は、医師としての厚みを増すためにもとてもいい経験になるでしょう。

ご本人やご家族との対話を重視し 生活を支える医療を提供したい

地域医療の現場に出て2年目ですが、その難しさややりがいを日々感じています。当院は

138病床の比較的小規模な病院で、すべての分野を均等に深く診ていく診療体制を整えにくいのが現状です。このため、私は受診された患者さんがどのような治療までご希望なのかを丁寧に伺い、それをどう実現するかをご相談しながら診療を進めるよう心がけています。例えば慢性期の患者さんの場合、痛みや苦しさをある程度抑えつつ住み慣れた場所で穏やかに過ごされたい方は、それに応じた治療を当院で行いますし、この地を離れても高度医療を受けたいとお考えの方には、ほかの医療機関をご紹介したいと思います。

ただ、そうした選択を1回で決めるのは難しいことで、できる限り患者さんやご家族と何度も話しをしたり、「何かお聞きになりたいことはありませんか?」と声をかけをしたりして、ご自身が納得できる選択をされるようにと努めています。

初期研修先の病院では、高齢の患者さんが病気が治療できても入院による筋力の衰えなどの影響で、なかなか以前のよう暮らしに戻れないケースを度々目にしました。退院後にご自宅での介護が必要なのか、必要な場合は同居者で対応可能なのか、独居ならヘルパーさんに入っていたり、患者さん一人ひとりの生活まで考慮した退院支援、在宅の患者さんのレスパイト入院などにもぜひご協力をお願いします。私は、「ご本人がやりたいことをサポートする」のが医師の役割だと思っていますので、これまでの経験を生かし、当院でも患者さんの

生活を支える医療を提供したいと考えています。

院内や地域との協力を深め 患者さんごとに適切な医療を

当院がある下田地域の周辺は高齢化率が全国平均より高いのですが、私の印象では若い患者さんも多く、それだけ多様な医療ニーズがあると感じています。そうした患者さんの一人ひとりを丁寧に診て、経験豊かな先輩医師、ほかの診療科の医師とも協力して、適切な診療を心がけています。

また、医師になってから、地域の先生方が患者さんの生活背景まで熟知して診療され、万一のときに中核医療機関を利用いただくという連携が、地域医療に大いに貢献することを身をもって知りました。当院でも地域の医療機関や開業医の先生方とさらに協力を進め、患者さんの健康を守り、最後まで地域で過ごせるよう地域完結型の医療の充実をめざしたいと考えています。連携の中で、当院の検査機器なども積極的にご利用いただき、患者さんのご紹介についても気兼ねなくご相談いただければと思います。

患者さんのご紹介につきましては、地域医療連携室までご連絡ください。
下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市六丁目4-10



内科
尾崎 友香 Yuuka Ozaki
2019年自治医科大学医学部卒業。静岡県立総合病院で初期臨床研修を受けた後、大学からの派遣で西伊豆健育会病院内科に勤務。2022年4月から下田メディカルセンター内科で診療を開始。静岡県豊田市出身。趣味のスキューバダイビングも最近は潜る時間が取れず、伊豆の海は未経験。

肝胆膵がん到低侵襲の腹腔鏡下手術が対応可能に



消化器外科 科長
加藤 高晴 Takaharu Kato

2002年高知大学医学部卒業後、埼玉医科大学外科に入局。自治医科大学附属さいたま医療センター消化器外科助教、医局長などを経て2022年より現職。日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会肝臓専門医。日本消化器病学会消化器病専門医。日本肝胆膵外科学会評議員。日本がん治療認定医機構認定医。日本ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター(ICD)。医学博士。

自治医科大学附属さいたま医療センターの消化器外科で、特に肝臓と胆道、膵臓のがんの腹腔鏡下手術を専門に取り組んできました。当科では、これまでも大腸がんや胃がん、胆石、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどに腹腔鏡下手術を行っていましたが、今後は肝胆膵のがんに対しても腹腔鏡下手術を行えるよう準備を進めています。

腹腔鏡による手術の1番の利点は、低侵襲の手術が目指せることです。例えば肝臓や膵臓の手術を開腹で行うと、おなかをかなり大きく切開する必要があります。しかし、腹腔鏡であれば直径1cm前後の穴が4カ所と、臓器を取り出すためにおへそのあたりを5cm程度切開するだけで済みます。そして膵体尾部切除術の場合の在院日数が、開腹手術では中央値が3週間のところ腹腔鏡下手術では2週間と、1週間短くなります。これは、肝臓の手術でも同様のデータが出ています。つまり、腹腔鏡のほうが手術後の容体が回復しやすく、術後の予防的な抗がん剤投与もそれだけ早く開始することができます。また、腹腔鏡下手術では腹腔内にビデオカメラを挿入しますが、最近では裸眼よりも良く見えるくらいの術野の画像が得られ、出血量を少なくすることができると、より繊細な手術が可能です。これらは、腹腔鏡下手術の大きなメリットだと考えています。

東埼玉総合病院の消化器外科では、鼠径ヘルニアや虫垂炎、胆石症、胆嚢炎、肛門疾患から、胃や大腸、肝臓、胆道、膵臓などがんまで幅広く診療しています。4月より加藤医師が常勤医師として加わり、専門である肝臓、胆道、膵臓などがんに対する腹腔鏡下手術にもさらに力を入れています。

幅広い消化器疾患の治療や手術に対応

当院の消化器外科では、私を含めた3人の常勤医師を中心に診療を行っています。疾患としては、いわゆる消化器外科のコモンディージズと呼ばれるような鼠径ヘルニアや虫垂炎、胆石症、胆嚢炎、肛門疾患などの良性疾患が多くなっています。これらの患者さんを受け入れてしっかりと治療を行うのが、当院の重要な役割の一つだと考えています。また、胃や大腸、肝臓、胆道、膵臓などがんの治療にも力を入れています。近隣には、大きな基幹病院やがんセンターがないこともあり、当院でがんの手術を受

大腸がんの患者さんは胃がんにも注意が必要

コロナ禍での健診控えが増えている影響もあると思います。私の知っている限りでも患者さんが便秘がひどいという症状で受診し、大腸がんが進行して閉塞を起こしていたため緊急で手術をするということが少なくありませんでした。埼玉県は大腸がん検診の受診率が低く、この大腸がん検診の受診率を上げることが、地域の大きな課題だと感じています。さらに、自治医科大学での調査ですが、大腸がんの手術を受けた患者さん2500人と埼玉県のがん検診を受けた方を比較すると、前者に18倍もの確率で胃がんが見つかりました。つまり、大腸がんが見つかった場合には、胃がんにも注意を払う必要があるということです。このことはぜひ開業医の先生方にも知っておいていただきたいと思っています。

出会うことができたら良かったと思ってもらえる診療を心がける

診察の際には、患者さんに対して、日常生活ではあまり使わない医療の用語を避けてできるだけ平易な表現で話をしています。加えて、外来で聞いた話を家に帰ったら忘れてしま

ける患者さんも少なくありません。紹介いただいた患者さんに手術が必要であれば、当院では大学病院などと比較して手術までの待機時間も短く患者さんの希望に沿って日程を決めるなど、柔軟な対応が可能です。また、当院は在宅医療にも対応していますので、高齢の方が手術を受けてADLが低下してしまったという場合に、訪問診療や訪問看護などまで続けて提供できることが特徴だと思います。

在院日数の短縮などメリットが多い腹腔鏡下の手術

私は今年の4月に着任しましたが、それまではということもありまして、できたからご家族も同席いただいで、わかったと思っただけのままで、できるだけ丁寧な、必要であれば何度でも話をすることを心がけています。さらに、患者さんが手術や治療を受けるのか、受けないのかなどの判断をするときにも寄り添い、自分の家族だったらどうするのかという視点で対応するようにしています。患者さんの人生の一大事に携わる中で、がんやほかの病気の完治がもちろん一番ですが、もしそうならならなくても、出会うことができたら良かったと思っただけのようにすることを大切にしています。

連携している開業医の先生方に紹介していただいた患者さんは、できるだけ早く、きめ細かに対応し、患者さんやご家族の理解を得た上で治療を進めること。そして、合併症もなく患者さんをお返しできるように努めていきますので、安心してご紹介いただきたいと思います。

患者さんのご紹介につきましては、地域連携課までご連絡ください。

東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5

神奈川県央地域すべての血液疾患の最後の砦をめざす

海老名総合病院は、血液疾患の専門的な診療に対応する地域に数少ない医療機関として、白血病や悪性リンパ腫などをはじめとする血液疾患が疑われる患者さんの紹介を受け入れています。この数十年で目覚ましい進化を遂げている血液内科の分野において、新薬なども積極的に取り入れながら、患者さんやそのご家族に寄り添う治療を大切にしています。

地域の人々の血液疾患に対し最後の砦としての診療に取り組む

当院の血液内科は、東海大学医学部付属病院血液腫瘍内科の関連病院として診療を行っています。血液内科は近隣地域の病院には少ない診療科ですが、東海大学医学部付属病院、またその関連病院と密に連携し、当院では神奈川県央地域の血液疾患の患者さんをすべて網羅するという意気込みで診療をしています。地理的な特徴としては、海老名市はもちろん座間市、綾瀬市、茅ヶ崎市、寒川町。さらには、厚木市や愛川町までの人口90万人以上をカバーし、相模原市などからも来院されています。近隣地域の血液疾患の最後の砦という意識を持ち、診療に取り組んでいます。

新薬も積極的に導入しほぼすべての血液疾患に対応

当科には血液内科を専門とする4人の医師がおり、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病など、ほぼすべての血液疾患に対応しています。初診外来は当院で、再診は隣にある海老名メディカルプラザで私たちが診療しています。海老名メディカルプラザには、外来抗がん剤治療室があります。かつての抗がん剤治療は入院が必要で、患者さんは何度も入院を繰り返さなくてはならないという状況もありました。しかし、現在は悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などでは外来通院での抗がん剤治療が可能となり、患者さんのQOLを保ちながらの治療ができるようになりました。



した。また、血液疾患に対しては近年、新しい薬剤もたくさん登場しています。新しい薬剤のすべてが一概に良いとは言いきれませんが、治療の選択肢が増え、提供できる医療が増えますので、当科では健康保険の適用があるものについては積極的に採用しています。さらに、骨髄バンクや臍帯血移植、兄弟など血縁者間の移植といった同種造血幹細胞移植や新薬の治療などは、東海大学医学部付属病院に紹介して対応しています。

劇的に進化した血液疾患の治療

血液疾患の治療は劇的に進化しています。例えば、急性骨髄性白血病です。成人では急性リンパ性白血病よりも急性骨髄性白血病のほうが多いのですが、65歳や70歳以上の高齢者で通常の強い治療ができないような方には、これまで少量の抗がん剤を投与するなどあまり効果的な治療方法がなく、奏効率が高いとは言えません。しかし、現在ではベネトクラクスの内服に加えて、アザシチジンの皮下注射が少量のシタラピンのどちらかを投与することで奏効率がかなり上がっています。さらに、以前の治療は入院が必要でしたが、この治療は外来通院の1カ月サイクルで行うことが可能です。この治療によって、高齢で発症した急性骨髄性白血病のすべてが治るわけではありませんが、外来通院で病状をコントロールしながら生存率を高くし、患者さんが自宅で過ごす時間を増やすことができるようになりま

した。これは、ここ1年くらいの話ですが、かなり画期的な治療方法ですし、ほかにも良い薬がたくさん登場しています。

患者本人や家族のニーズに応える医療を大切に

血液疾患は、基本的に悪性の病気の方や高齢の方も多いため、患者さん本人やそのご家族と、治療方針や現在の病状などをよく相談させていただいて診療にあたることを大切にしています。すんなりと治療が進むような場合は特に問題はありませんが、中には治療がなかなか奏効せず、緩和ケアで苦痛を減らすといったベストサポートタイプケアがメインになることもあります。そのような状況であっても、できるだけ患者さん本人やご家族の気持ちに寄り添うことを大切にしています。定期的に輸血が必要だけれど、当院への通院が難しい患者さんなどについては、同法人の座間総合病院への転院の調整を行っているほか、在宅医療も海老名メディカルプラザと連携して対応するなど、患者さんやご家族のニーズにできるだけ応えられるよう心がけています。

さらに充実した設備でより適切な医療の提供をめざす

当院では、来年春に新棟のオープンを予定しています。現在、無菌室は4床の大部屋が2部屋、個室が1部屋の合計9床ですが、新棟では

すべて個室の8床を予定しています。建物が高くなってくると、真菌感染症のリスクが高くなることは避けられませんが、新しくすることでそのリスクを減らすことができます。加えて、これまでの大部屋の無菌室はナースステーションから少し離れたところであり、基本的にADLが自立している方でない入院が難しかったのですが、新棟では個室の無菌室がナースステーションから近くなりますので、全身状態が若干悪いような患者さんでも適応があれば入室が可能となります。さらに、現在の大部屋は男女で部屋を分けるために空床があっても性別が違えば入れないということがありましたが、個室になるのでそのようなこともなく多くの患者さんを受け入れることができるようになります。

地域には、血液疾患に対応している医療機関が少なく、見逃してしまうと患者さんを放置することになってしまったり、治療をすべき時期を逃してしまったりすることもあり得ます。鉄欠乏性貧血以外の貧血や血小板減少をはじめ、血液疾患が疑われる患者さんがいましたらご相談いただければと思います。

患者さんのご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。

海老名総合病院 患者サポートセンター TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320

血液内科 医長

沼田 裕樹 Hiroki Numata



2009年山梨大学医学部卒業。同大学医学部での臨床研修を経て東海大学医学部血液腫瘍内科に入局。関連病院勤務などを経て2017年より現職。日本内科学会 認定内科医 日本血液学会 血液専門医 臨床研修指導医 緩和ケア研修会修了。

卓越した技術と年間300件の実績を誇る MISによる高度な人工股関節置換術



1997年、海老名総合病院に日本初の人工関節センターが発足。その後2016年に新設された座間総合病院に移転しました。人工股関節置換術(以下THA)・人工膝関節置換術・関節リウマチを三本柱とした診療を行い、THAは毎年300件以上、今年2月には累積7000件を達成しました。

全国から症例が集まるTHA

現在、ほぼすべてのTHAをMIS(最小侵襲手術)で行っています。MISは様々な分野の手術に存在し、THAでは筋肉を切離さないものを指します。術後早期からのリハビリテーション開始、早期機能回復が可能で、症例も幅広く、通常の症例はもちろんのこと、高度変形例や、骨切り術などの有先行手術例、超高齢例、有全身合併症症例といった難治例が全国から集まっています。MISによるTHAの対応可能な病院は全国的にもまだまだ少ない印象です。また、当院の特色のひとつとして、両側罹患例に対する両側同時THAがあります。術後のリハビリテーションの容易さや歩容の改善は二期的置換術と比較して格段に優れています。

当院では長期耐用性を有するインプラントを使用し、有事の際の再置換も含めて若年層の症例にも対応しております。また、全職種スタッフによるカンファレンスなどを定期的に行い、様々な症例に対応できるよう努めるほか、国内外の専門誌や学会に成績を報告することで常時診療内容の検証を行い、臨床のみならず学術的な活動にも重点を置いています。

患者さんに寄り添い、支える診療

現在、常勤医師6名、複数チームで診療にあたっています。全身検査や他科受診、自己血貯血といった準備期間は必要ですが、お待たせすることなく患者さんの希望にあわせた入院・手術日の調整が可能です。急性期病棟から地域包括ケア病棟、回復

地域とともに

「高度かつ親切」な医療を

元気な高齢者が増えてきました。最高齢のTHA例は95才です。90才でも100才でも、痛みが耐え続ける生活はつらいもの。高齢者でも十分な準備のもと手術を行っています。また、患者さんが手術は時期尚早と考えている場合や、諸事情ですぐには手術を受けられない場合などは、通院で最大限の効果が得られるよう保存療法にも注力しております。来院イコール即手術ではありません。

座間総合病院は地域密着型の病院です。症例の大半は地域の医療機関からのご紹介です。当センターは紹介元との関係を大切に、症例を積み重ねてきました。手術に至らず紹介元の先生方と併診しながら経過を観察している患者さんも多数いらっしゃいます。手術の要否や

手術希望の有無、疾患の軽重を問わず股関節の症例をお気軽ににご相談いただければと思います。

また、逆紹介が多いのも当センターの特色です。ご紹介いただいた患者さんが術後退院される際には、必ず紹介元を受診して結果を報告するようお願いしています。退院後、当院でのフォローと並行して必要な場合には骨粗鬆症などの治療を紹介元で対応いただくなど、患者さんからは病診協力の利便性に高い評価をいただいています。座間総合病院の股関節診療は、今後も「高度かつ親切」な医療を心掛け、地域の皆様とともに歩んでまいります。

人工関節・リウマチセンター センター長 院長補佐

草場 敦 Kusaba Atsushi



昭和大学医学部卒業、2002年よりJMA海老名総合病院人工関節リウマチセンター、2016年より現職。昭和大学藤が丘病院講師。日本リウマチ財団フェロー、ベルリン大学ノイケルン病院フェロー、ハーバード大学フェロー。文京学院大学教授(兼任)。旧・通産省の機械技術研究所招聘研究員(バイオマテリアルの研究)。医学博士、日本人工関節学会評議員・専門医、日本リウマチ学会評議員評議員・専門医・指導医、日本整形外科学会専門医、日本リウマチ財団登録医、ドイツ連邦共和国医師免許、他。

期リハビリテーション病棟が備わった当院では、早期から最大3カ月まで無理のない入院期間が設定できるので、希望に沿った入院期間で充分なりハビリテーションも受けられます。退院後の生活に関しても当院でTHAを受けた方には原則一切の制限はありません。マラソンやスキー、テニスといったスポーツに復帰された方も多数いらっしゃいます。

股関節や全身の状態だけでなく、家族構成、生活状況、就業状態など個々の患者さんによって社会的背景は様々です。本人が希望される形での最適な治療が提供できるようフレキシブルに治療プランを調整し、患者さんの希望に寄り添った診療を心掛けています。家庭を長期間留守にできない環境にある方、たとえば仕事や育児、介護、最近ではペットが高齢で、という方も増えています。退院後の生活環境に不安がある方も安心して入院治療に専念していただけるよう、各種サポートにも注力しています。たとえば、費用に関しても自立支援医療(更生医療)や指定難病治療の指定医療機関になっておりますので、自己負担分を軽減した治療に対応できますし、各種医療補助制度に関する情報をお伝えしています。

また、退院後の外来リハビリテーション終了後も定期的に検査と経過観察を行い、人工関節の機能とともに身体機能の状態を評価・確認しています。必要に応じて骨や運動機能のメンテナンスを行い、半永久的にフォローアップします。



先天性股関節脱臼、小児期に骨切り術。両側同時THA。術後「生まれて初めて走りました」。
※術後の経過には個人差があります。

患者さんのご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。

座間総合病院 患者サポートセンター TEL 046-251-3700(直通) 神奈川県座間市相武台1-50-1

2 下田メディカルセンター 開設10周年を迎えました

2012年5月、共立湊病院を前身とした下田メディカルセンターが、下田市に移転、開院しました。下田市を含む伊豆半島南部は非常に医療資源の乏しい地域でも



2012年 竣工式

あり、下田メディカルセンターはこの10年、医師をはじめとする医療スタッフの不足、地域との連携など様々な課題を乗り越え、地域に求められる医療、看護を提供するため尽力してきました。また、重要な責務でもある急性期医療への対応にも力を入れ、現在は、年間約1300台の救急車を受け入れています。

急性期医療を終えた高齢者の方の在宅復帰支援にも力を入れており、急性期一般病床の他に地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟など、急性期・亜急性期・回復期と施設内でシームレスに対応できる体制を整えています。



下田メディカルセンターはこれからも地域医療を支える中核的医療機関として、地域のみなさまが求める様々な医療ニーズに応えるよう努力してまいります。

	2012年度	2021年度
外来患者数	19,056人	68,868人
入院患者数	21,071人	33,473人
手術件数	366件	1,477件
救急車受け入れ台数	1,232台	1,309台

3 女性が輝ける職場環境を目指して ～女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク『えるぼし』を取得～

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス(JMA)は、女性の活躍推進に関する取り組みが優良な法人として、厚生労働大臣の認定制度「えるぼし認定」3つ星(3段階目)を取得しました。



「えるぼし認定」とは、女性の活躍推進のための行動計画を策定し、届け出を行った企業が、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの評価項目に応じ3段階で評価されるものです。JMAはこのすべての基準を満たす「3段階目」の認定を受けました。

今後も引き続き職員の働き方を見直し、仕事と生活の調和が取れた働き続けやすい雇用環境の整備に取り組んでまいります。

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

業種：医療、福祉
企業規模詳細：男性732人 女性1,687人(2021年11月現在)

■女性活躍推進の状況

労働者に占める女性労働者の割合	(正職員)68.5% (非常勤)62.3%
管理職に占める女性労働者の割合	56.4%(57人)(管理職全体101人)
男女別の雇用形態の転換実績	(非常勤→常勤)男性:8人、女性:59人 (派遣労働者→常勤)男性:0人、女性:1人
男女別の再雇用または中途採用の実績	(再雇用実績)男性:10人、女性:2人 (中途採用実績)男性:115人、女性:240人
労働時間などの働き方	一月あたりの労働者の平均残業時間 (常勤)6.3時間 (非常勤)0.7時間

「JMAグループTOPICS」では、グループ内におけるイベントや取り組み・ニュースなどをご紹介します。

1 海老名総合病院 2023年春 新棟竣工

上棟式を執り行いました

4月25日、海老名総合病院で新棟の上棟式が執り行われました。当日は晴れ渡った青空のもと、建設中の新棟屋上に式場を設置。清水建設株式会社(設計施工)と当法人の関係者が集まり「鉄締め」の儀、「検鉄」の儀などを行いました。

金のスパナで金銀のナットを掛け声に合わせて締める「鉄締め」の儀、さらに「検鉄」の儀では、金、銀のハンマーで金銀鉄を叩き、工事の安全を祈願しました。



モデルルームが完成

工事中の新棟の一角、3階のA病棟にモデルルームが完成しました。医師や看護師をはじめ様々な職種の職員が見学をして、広さや動線、使い勝手を確認しています。カウンターの高さやナースコールの位置、頭床台のデザイン、資材カートの位置など細かな部分もチェック。患者さんを安全に迎え入れるため細心の注意を払い、効率良く働きやすい職場環境に向けて調整を行っています。

職員たちの思い入れの詰まった新病院は来年春、完成します。



モデルルーム



スタッフステーション



大部屋(4床室)

新棟建設についての進捗情報はHPをご覧ください

海老名総合病院HPに新棟建設特設ページがオープンしました。ぜひ進捗状況をチェックして下さい。

<http://ebina.jinai.jp/special/>



下田メディカル
センター

「医師事務作業補助者」誕生
～医療の質向上に事務的な業務をサポート～

医師の業務負担の大きさが長年問題視され、医療の質の担保が重要課題とされています。医師の事務的な業務の負担を軽減し、診療に専念できる環境を作り、医療の質を向上させることを目的として、医師事務作業補助者が誕生しました。

医師事務作業補助者は、入職後6か月以内に32時間の研修が義務付けられ、ここでは医師事務作業補助者として必要とされる基礎的な知識を習得します。また入職後も、定期的な外部研修に積極的に参加しています。業務は多岐にわたり、診断書や介護保険主治医意見書の代行作成などのほか病院ごとに実情によって特色のあるものになっています。

医師事務作業補助体制加算が新設された2008年から14年が経過し、今回の診療報酬改定では加算開始の当初より約2倍ほどの加算となりました。この加算は医

師事務作業補助者として質の向上を求められている加算と考えています。今後業務はさらに拡大が予想され、専門性の高い医師事務作業補助者が必要とされています。これまで以上に医師とのコミュニケーションを円滑にとり、多職種との連携を強化し、一人ひとりが自覚を持って、自己研鑽できるよう努めてまいります。

業務内容

- ・ 診断書・介護保険主治医意見書など医療文書の代行作成
- ・ 退院時要約の代行記載
- ・ 症例登録代行入力
- ・ 診療録代行記載
- ・ 病棟業務 など

お問い合わせ

下田メディカルセンター

TEL 0558-25-2525(代)

〒415-0026
静岡県下田市六丁目4-10

施設のご紹介

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス(静岡地区)



下田メディカル
センター

〒415-0026
静岡県下田市六丁目4-10
TEL 0558-25-2525(代)



下田メディカルセンター附属
みなとクリニック

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-0005(代)



しらはまクリニック

〒415-0012
静岡県下田市白浜1528-2
TEL 0558-27-3700(代)



介護老人保健施設
なぎさ園

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-6800(代)